

「ちおこ」の力で 私たちの世界も広がる



大槌町観光交流協会
ゆか
小國 夢夏 さん

釣部さんの行動力と対応力、喜嶋さんのデザインの力は、観光交流協会ができる仕事の幅を大きく広げてくれました。また「ちおこ」の人たちの、違う地域から来た経験と、豊富な人脈などのおかげで、多くの人と新たに繋がることができています。

人がつながり、にぎわいを生み出すための大きな力として、これからもっと地域と関わり、ますます活躍してほしいと思っています。

移住定住 WEB サイト 「ココカラオオツチ」 ほか SNS で情報発信



▶ WEB サイト

大槌町の暮らしについて紹介しているほか、空き物件情報や地おこ募集の情報なども掲載



▶ インスタグラム



▶ ツイッター



▶ フェイスブック



▶ ライン



ぜひ活用して大槌の「居・色・自由」
を楽しみましょう！

大槌町観光交流協会

きしま ひろと
喜嶋 宥登 さん
(写真左)



大阪府出身。中学生の時に防災に関心を持ち、2017年にボランティア活動で岩手県を訪れる。昨年までは釜石市で水産加工業に従事。今年度4月に「ちおこ」着任。

大槌町観光交流協会

つりべ みのる
釣部 実 さん
(写真右)

しながら取り組んだという喜嶋さんは、デザインでさらに地域の思いを伝えていきたいと考えています。

お互いに持ち味の異なる2人ですが、大槌で暮らし、働く中で共に感じることは「人の営みの中にある地域のつながりの強さ」。自分たちの仕事を通して関わり、その特色を強く大きくしていきたいと語ります。

「地元の人、移住者という色分けなく、立ち寄った人も一緒に、今大槌にいる人同士として自然に会話ができる場所をつくりたい」。2人の若者が、観光交流の可能性を広げていきます。

埼玉県出身。専門学校でグラフィックデザインを学ぶ。「岬のマヨイガ」プロジェクトをきっかけに大槌を知り、新しいことに挑戦できる環境と感じて今年度6月、「ちおこ」として着任。



3年ぶりに開催された「大槌まつり」。大きな盛り上がりを見せた舞台裏で、実行委員会として多くの人が地域や関係者を縫い合わせるように活躍しました。その中に、大槌町観光交流協会の釣部実さんと喜嶋宥登さんの姿がありました。

今年度、地域おこし協力隊として着任した2人。釣部さんは、イベントや観光案内などの現場の実行部隊として準備作業や事業者、関係機関とのやりとりなどを担当。喜嶋さんは、デザインを学んできた経験を活かし、イベントポスターのデザインなどを手がけています。

地域の人や事業者との多く関わることにやりがいを感じるという釣部さん。「駅に遊びに来る人と話したり、地域おこし協力隊と分かって声をかけてもらったり、人とのつながりを強く感じる」と話し、近所の人づきあいや自治会との関わりも大切に考えるようになったといいます。

今回の大槌まつりでもポスターやチラシをデザインした喜嶋さんは、「実行委員会の人たちと打ち合わせしていく中で、地域へのこだわりや、まつりに対して持っているイメージや思いを強く感じた」と語ります。

地域と一緒に作っていることを実感



第2回

地元の人も移住者も観光客も 「いま」大槌に居る「つながり」